

## VII 教育科目

### i 基礎助産学

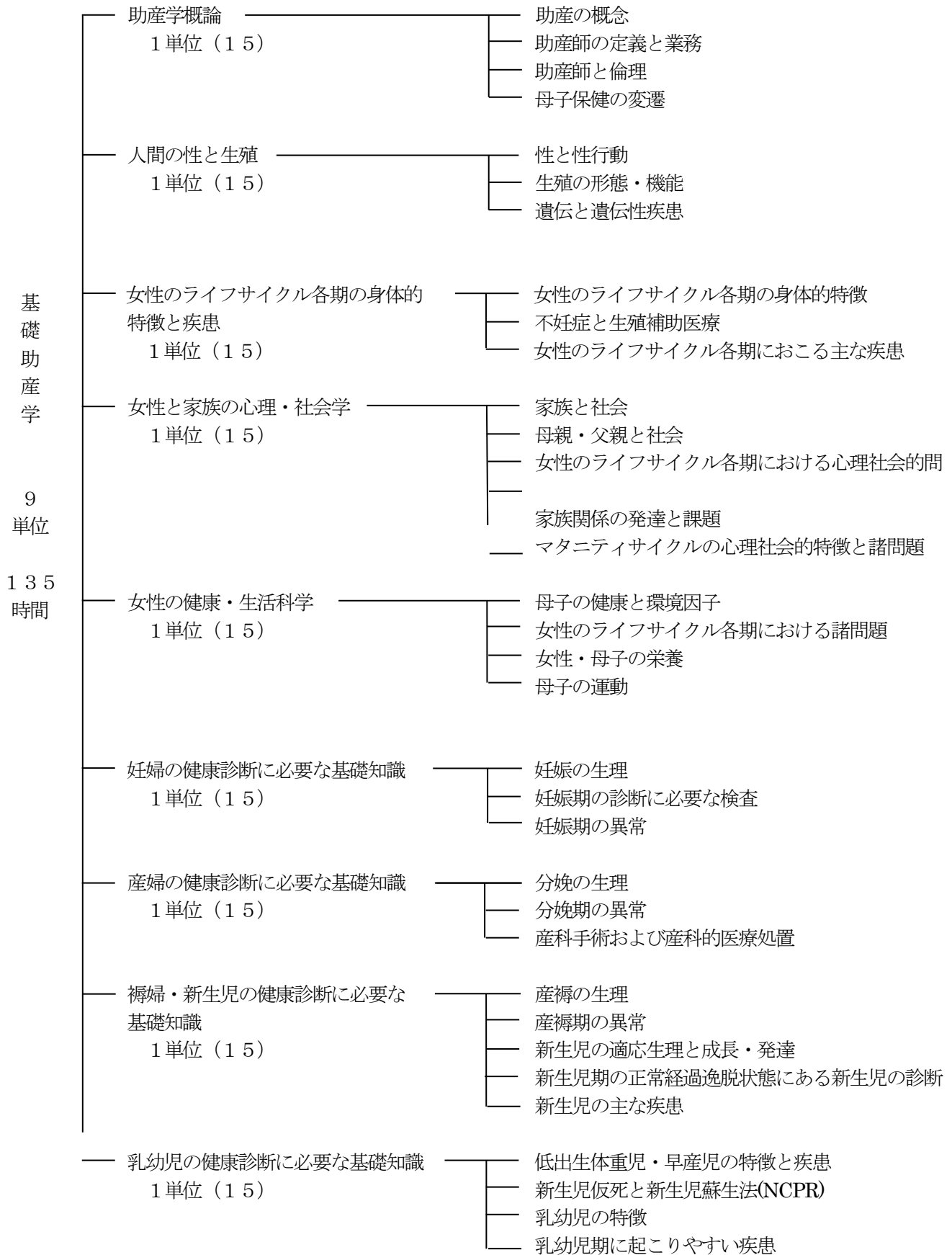
#### 1 目的

助産師の役割・責務を理解し、女性の生涯を通じて継続的に支援するために必要な基礎的知識を習得する。

#### 2 目標

- (1) 助産の基礎概念と職業倫理について理解する。
- (2) 専門職としての助産師の役割と責務について理解する。
- (3) 助産援助に必要な人間の性と生殖の基礎知識を習得する。
- (4) 女性のライフサイクル各期の性と生殖に関する疾患や異常とその対処の基礎知識を習得する。
- (5) 女性のライフサイクル各期と家族における心理・社会的課題や行動発達に関する基礎知識を習得する。
- (6) 女性の健康に影響を及ぼす環境因子と、健康の維持増進への取り組みの基礎知識を習得する。
- (7) 妊娠および妊娠経過の正常とその逸脱を診断するために必要な基礎知識を習得する。
- (8) 正常な分娩経過とその逸脱を診断するために必要な基礎知識を習得する。
- (9) 産褥経過および新生児経過の正常とその逸脱を診断するために必要な基礎知識を習得する。
- (10) 健康な乳幼児と乳幼児期の成長発達に影響を及ぼしやすい低出生体重児・未熟児の基礎知識を習得する。

### 3 構成図



4 授業科目の目的・目標・内容・方法

授業科目	基礎助産学	担当教員	専任教員☆ ①岩田真美	単位数	1	時期	4～5月
	助産学概論			時間数	15		
目的と目標	<p>目的 助産活動の基盤となる助産の基礎概念と職業倫理を理解し、専門職としての助産師の役割と責任を自覚する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 助産の意義と対象が理解できる。</li> <li>2 助産師の専門性を発揮するために必要な役割と責任について理解できる。</li> <li>3 女性のライフサイクルにおける健康のあり方や権利について理解できる。</li> <li>4 助産や助産師教育の歴史の変遷を知り、これからの助産師に求められる専門性について考えることができる。</li> <li>5 母子と家族の生命に関わる倫理的課題と助産師の役割について理解し、専門職としての倫理観を高めることができる。</li> </ol>						
	回数	学習課題	内 容	方法	担当教員	備考	
1	助産の概念	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 助産とは</li> <li>2 助産の定義</li> <li>3 助産の意義</li> <li>4 助産の対象</li> <li>5 助産の将来</li> </ol>	講義	専任教員 ①岩田真美			
2 3	助産師の定義と業務	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 助産師とは</li> <li>2 助産師の定義</li> <li>3 助産師の業務</li> <li>4 国際的な職制と身分</li> <li>5 助産師の役割・責任と今後の展望               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) コア・コンピテンシー 助産師の声明</li> </ol> </li> <li>6 わが国における産科医療と助産師               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) チーム医療における助産師の役割</li> <li>(2) 他職種との調整・連携</li> <li>(3) 関係機関との調整・連携</li> </ol> </li> <li>7 助産実践を支える理論と研究               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 助産学に関連する理論</li> <li>(2) 助産師と研究</li> </ol> </li> <li>8 助産の変遷               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 助産の歴史</li> <li>(2) わが国における助産師教育</li> <li>(3) 諸外国における助産師教育</li> </ol> </li> </ol>	講義	専任教員 ①岩田真美			
4 5 6	助産師と倫理	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 女性と健康と人権               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) リプロダクティブヘルス/ライツ</li> <li>(2) 女性の人権</li> </ol> </li> <li>2 母子と家族の生命の尊厳と権利の尊重               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 生命倫理とは</li> <li>(2) 倫理的課題と助産師の役割</li> </ol> </li> <li>3 助産師の職業倫理               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 助産師の倫理綱領</li> <li>(2) 助産実践と倫理</li> </ol> </li> </ol>	講義	専任教員 ①岩田真美	認定講習		

7	母子保健の変遷	1 母子保健の動向と諸制度 2 母子を取り巻く現状と課題 3 母子保健の基盤整備	講義	専任教員 ①岩田真美	
8	試験（1時間）	筆記試験		専任教員 ①岩田真美	
<p>評価方法 筆記試験 100点（専任教員①1～7：100点）</p>					
<p>教科書・参考図書 助産師基礎教育テキスト1 助産学講座1・9 看護六法 母子保健の主なる統計 国民衛生の動向 助産師の声明</p>					
☆担当教員 の実務経験		①助産師として医療機関に勤務した経験を生かした授業展開をする。			

授業科目	基礎助産学	担当教員	外部講師☆ ①前田キヤ子 ②鈴木真理子 ③村上博昭	単位数	1	時期	4～5月
	人間の性と生殖			時間数	15		
目的と目標	<p>目的 助産援助に必要な人間の性と生殖の基礎知識を習得する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>人間の性と性行動、社会的性役割の特徴が理解できる。</li> <li>女性と男性の生殖器と生殖機能が発生的、解剖学的、生理学的に理解できる。</li> <li>遺伝と遺伝性疾患について理解できる。</li> </ol>						
回数	学習課題	内 容		方法	担当教員	備考	
1 2 3	性と性行動	<ol style="list-style-type: none"> <li>性とは <ol style="list-style-type: none"> <li>性とセクシュアリティ</li> <li>発達段階とセクシュアリティ</li> </ol> </li> <li>性役割とジェンダー <ol style="list-style-type: none"> <li>性差とジェンダー</li> <li>ジェンダー・アイデンティティ</li> <li>ジェンダー・ステレオタイプ</li> </ol> </li> <li>性行動 <ol style="list-style-type: none"> <li>性行動の生理と心理</li> <li>性反応</li> <li>性機能の分類・障がい・治療</li> </ol> </li> </ol>		講義	外部講師 ①前田キヤ子	認定講習	
4 5	生殖の形態・機能	<ol style="list-style-type: none"> <li>発生と形態 染色体と遺伝子、性分化</li> <li>男性生殖器の構造と機能</li> <li>女性生殖器の構造と機能</li> <li>性周期と調整機序 <ol style="list-style-type: none"> <li>中枢神経と性機能調節</li> <li>卵巣機能、卵胞発育とその機能</li> <li>子宮内膜、子宮頸部、膣、外陰部</li> <li>性周期が全身に及ぼす影響</li> </ol> </li> </ol>		講義	外部講師 ②鈴木真理子	認定講習	
6 7	遺伝と遺伝性疾患	<ol style="list-style-type: none"> <li>遺伝医学の基礎的理解 <ol style="list-style-type: none"> <li>遺伝医学とは</li> <li>遺伝医学と倫理</li> <li>遺伝相談</li> </ol> </li> <li>染色体異常 <ol style="list-style-type: none"> <li>常染色体異常</li> <li>性染色体異常</li> </ol> </li> <li>遺伝性疾患 <ol style="list-style-type: none"> <li>単一遺伝子病</li> <li>常染色体優性遺伝</li> <li>常染色体劣性遺伝</li> <li>X連鎖優性遺伝</li> <li>X連鎖劣性遺伝</li> <li>非メンデル遺伝病</li> </ol> </li> </ol>		講義	外部講師 ③村上博昭		
8	試験（1時間）	筆記試験			外部講師 ①前田キヤ子 ②鈴木真理子 ③村上博昭		

<p>評価方法 筆記試験 100 点 (外部講師① 1～3 : 40 点、外部講師② 4～5 : 30 点、外部講師③ 6～7 : 30 点)</p>	
<p>教科書・参考図書 助産師基礎教育テキスト2 助産学講座 2・6 最新産科学 (正常編) 病気がみえる⑨ (婦人科・乳腺外科)</p>	
<p>☆担当教員 の実務経験</p>	<p>①助産師として医療機関に勤務した経験を生かした授業展開をする。 ②③医師として医療機関に勤務している経験を生かした授業展開をする。</p>

授業科目	基礎助産学		担当教員	外部講師☆ ①今井篤志 ②安田香子	単位数	1	時期	4～5月
	女性のライフサイクル各期の身体的特徴と疾患				時間数	15		
目的と目標	目的 女性のライフサイクル各期の性と生殖に関する疾患や異常とその対処についての基礎知識を習得する。							
	目標 1 女性のライフサイクル各期の身体的特徴が理解できる。 2 不妊症の原因、検査法について理解できる。 3 生殖補助医療の実際と副作用、関連する倫理的・社会的・法的問題について理解できる。 4 女性のライフサイクル各期の性と生殖に関連する疾患および異常の病態、診断、治療について理解できる。 5 各疾患および異常は、女性の性と生殖の発達と加齢の変化に密接に関わることが理解できる。 6 性感染症の発生動向やその特徴、病態と治療について理解できる。							
回数	学習課題	内 容			方法	担当教員	備考	
1	女性のライフサイクル各期の身体的特徴	1 女性のライフサイクル各期の身体的特徴 (1) 思春期女性の二次性徴 (2) 成熟期女性の妊娠・出産準備 (3) 更年期女性の卵巣機能低下 (4) 老年期女性の加齢			講義	外部講師 ①今井篤志	認定講習	
2 3 4	不妊症と生殖補助医療	1 妊娠成立の機序と不妊症 (1) 妊娠成立の機序 (2) 不妊症と関連疾患 ① 不妊症の定義と分類 ② 不妊症の検査 ア 卵管疎通性の障害 イ 排卵障害 ウ 男性因子に関連した障害 エ 子宮内膜症との関連 ③ 不妊症の原因 ④ 不育症 2 生殖補助医療と課題 (1) 生殖補助医療の実際 ① 人工授精 ② 体外受精 (2) 生殖補助医療の課題			講義	外部講師 ①今井篤志	認定講習	
5 6 7	女性のライフサイクル各期における主な疾患	1 小児期の疾患 (1) 先天性代謝異常 (2) 性分化異常 (3) 感染症 (4) 外性器の外傷 2 思春期の疾患 (1) 若年性機能性子宮出血 (2) 月経異常 (3) 月経困難症 (4) 摂食障害 (5) 神経性食欲（思）不振症 (6) 体重減少性無月経 (7) ひきこもり (8) 処女膜閉鎖症 (9) 膣閉鎖			講義	外部講師 ②安田香子		

		(10) 子宮奇形 3 成熟期の疾患 (1) 月経異常 (2) 生殖器の感染症 (3) 生殖器の腫瘍 (4) 子宮内膜症 (5) 乳房疾患 4 更年期の疾患 (1) 更年期障害 (2) 高脂血症 (3) 虚血性心不全 (4) 骨粗鬆症 (5) 更年期うつ 5 老年期の疾患 (1) 膣炎 (2) 子宮脱垂症 (3) 感覚器疾患 (4) 骨粗鬆症 (5) 感染症 (6) 各種悪性新生物 6 健康問題としての性感染症 (1) 性感染症の発生動向 (2) 性感染症と法律 (3) 性感染症とその治療 ① ウイルス感染症 ② クラミジア感染症 ③ 細菌感染症 ④ スピロヘータ感染症 ⑤ 真菌症 ⑥ 原虫症 ⑦ 寄生虫			
8	評価 (1時間)	筆記試験		外部講師 ①今井篤志 ②安田香子	
評価方法 筆記試験 100点 (外部講師①1～4 : 50点、外部講師②5～7 : 50点)					
教科書・参考図書 助産学講座2 助産師基礎教育テキスト2・7 最新産科学 (異常編)					
☆担当教員 の実務経験		①②医師として医療機関に勤務している経験を生かした授業展開をする。			

授業科目	基礎助産学	担当教員	外部講師☆ 神戸博一 ①青島友維	単位数	1	時期	4～5月
	女性と家族の心理・社会学			時間数	15		
目的と目標	<p>目的 女性と家族の心理社会的発達課題と支援に関する基礎知識を習得する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>母性・父性の発達と親役割遂行への支援について理解できる。</li> <li>家族の意義と役割、社会的機能を理解し、これからの家族のあり方について考えることができる。</li> <li>女性のライフサイクル各期の心理社会的特徴と諸問題が理解できる。</li> <li>マタニティサイクルにおける心理社会的特徴が理解できる。</li> <li>心理社会的ハイリスク妊産婦と家族に対する支援のあり方について理解できる。</li> </ol>						
回数	学習課題	内 容		方法	担当教員	備考	
1 2 3	家族と社会	<ol style="list-style-type: none"> <li>家族の機能と役割 <ol style="list-style-type: none"> <li>家族</li> <li>家族関係</li> </ol> </li> <li>家族の変化</li> <li>現代における家族の再編</li> <li>家族と法 <ol style="list-style-type: none"> <li>家族関係の発達</li> <li>ライフサイクル各期の発達課題</li> </ol> </li> </ol>		講義	外部講師 神戸博一		
4	母親・父親と社会	<ol style="list-style-type: none"> <li>母親と社会</li> <li>父親と社会</li> <li>子供と社会 <ol style="list-style-type: none"> <li>社会の中の子ども</li> <li>現代日本の子育て支援</li> <li>世界の子育て支援</li> </ol> </li> </ol>		講義	外部講師 神戸博一		
5	女性のライフサイクル各期における心理社会的問題	<ol style="list-style-type: none"> <li>女性のライフサイクルにおける心理・社会的課題</li> <li>思春期・青年期女性の発達と心理・社会的課題</li> <li>成人初期・中期女性の発達と心理・社会的課題</li> <li>更年期・老年期女性の発達と心理・社会的課題</li> </ol>		講義	外部講師 ①青島友維		
	家族関係の発達と課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>母子関係の形成と課題 <ol style="list-style-type: none"> <li>母性の概念</li> <li>母性に関する社会通念</li> <li>母子関係の形成</li> <li>母親役割</li> <li>母親役割遂行への支援とその課題</li> </ol> </li> <li>父子関係の形成と課題 <ol style="list-style-type: none"> <li>父性の概念</li> <li>父性意識</li> <li>父子関係</li> <li>父親役割</li> <li>父親役割遂行への支援とその課題</li> </ol> </li> <li>夫婦関係と子どもの発達</li> <li>家族、地域のネットワークと子ども・親の心理的な発達と課題親子関係 <ol style="list-style-type: none"> <li>愛着理論</li> <li>子どもの愛着と早期の母子関係</li> </ol> </li> </ol>					

		(3) 愛着の障害 4 子育て (1) 母性の多様化と子育て (2) 父親の育児 (3) 子育てを取り巻く環境 (4) 子育て支援に関わる専門職と相談機関 (5) 今後の子育て支援の課題			
6 7	マタニティサイ クルの心理社会 的特徴と諸問題	1 妊娠期の心理社会的特徴 (1) 心理社会的変化 (2) 夫・家族の関連性 (3) 諸問題 ① 出生前診断 ② 切迫流・早産 ③ 流産・死産の悲嘆反応  2 分娩期の心理社会的特徴 (1) 心理社会的変化 (2) 夫・家族との関連性 (3) 諸問題 ① 帝王切開 3 産褥期の心理社会的特徴 (1) 心理社会的変化 (2) 母親・父親役割の発達 (3) 産褥早期の親子関係 (4) 愛着形成 (5) 家族の関係性 (6) 諸問題 ① マタニティ・ブルーズと産褥精神 障害 ② 低出生体重児 ③ 子どもの障がい	講義	外部講師 ①青島友維	
8	試験 (1時間)	筆記試験		外部講師 神戸博一 ①青島友維	
評価方法 筆記試験 100点 (外部講師1～4:50点、外部講師①5～7:50点)					
教科書・参考図書 助産師基礎教育テキスト2・4・5・6・7 助産学講座4・6・7					
☆担当教員 の実務経験		①医師として医療機関に勤務している経験を生かした授業展開をする。			

授業科目	基礎助産学 女性の健康・生活科学	担当教員	専任教員 ①岡田多恵子 外部講師☆ 丹羽雅之 ②溝脇菜月 ③目加田志帆	単位数	1	時期	5～6月
	時間数		15				
目的と目標	<p>目的 母子の健康に影響を及ぼす環境因子と、健康の維持増進への取り組みの基礎知識を習得する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 母子の健康に影響を及ぼす環境因子と薬剤について理解できる。</li> <li>2 母子・女性のライフサイクル各期の心理社会的特徴と諸問題が理解できる。</li> <li>3 母子の食をめぐる現状と課題およびマタニティサイクル各期と乳幼児の栄養の特徴について理解できる。</li> <li>4 母子の健康の維持増進に必要な具体的取り組みについて理解できる。</li> <li>5 運動が母子の健康に与える影響と具体的取り組みについて理解できる。</li> </ol>						
回数	学習課題	内 容		方法	担当教員	備考	
1 2	母子の健康と環境因子	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 母子と生活環境               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 衣生活・住居</li> <li>(2) 環境汚染                   <ol style="list-style-type: none"> <li>① 大気・土壌・水質</li> <li>② 電磁波・放射線</li> <li>③ 騒音</li> </ol> </li> <li>(3) 化学物質                   <ol style="list-style-type: none"> <li>① 食品添加物</li> <li>② 残留農薬</li> <li>③ 遺伝子組換え食品</li> <li>④ 環境ホルモン</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>2 母子と薬剤               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 妊婦と薬剤                   <ol style="list-style-type: none"> <li>① 妊娠中の薬剤使用と影響</li> <li>② 妊婦の薬剤服用と注意事項</li> <li>③ 薬剤服用に対する妊婦への対応</li> </ol> </li> <li>(2) 産婦と薬剤</li> <li>(3) 褥婦・授乳婦と薬剤</li> </ol> </li> </ol>		講義	外部講師 丹羽雅之		
3	女性のライフサイクル各期における諸問題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 思春期               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 心理的・社会的特徴</li> <li>(2) 諸問題                   <ol style="list-style-type: none"> <li>① 月経を巡る精神科的問題</li> <li>② 性被害、犯罪被害</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>2 成熟期               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 心理・社会的特徴</li> <li>(2) 諸問題                   <ol style="list-style-type: none"> <li>① セクシャルハラスメント</li> <li>② ドメスティックバイオレンス</li> <li>③ 不妊治療</li> <li>④ 望まない妊娠</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>3 更年期・老年期               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 心理・社会的特徴</li> <li>(2) 諸問題                   <ol style="list-style-type: none"> <li>① 更年期障害</li> </ol> </li> </ol> </li> </ol>		講義	専任教員 ①岡田多恵子		
4 5	女性・母子の栄養	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 母子の栄養               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 母子の栄養と課題</li> <li>(2) 食事摂取基準</li> </ol> </li> </ol>		講義	外部講師 ②溝脇菜月		

		<p>2 マタニティサイクル各期の栄養</p> <p>(1) 栄養状態の評価</p> <p>(2) 妊婦の栄養</p> <p>① 妊婦の栄養と食事</p> <p>ア 妊娠期のアセスメント</p> <p>イ 妊産婦のための食生活指針</p> <p>② 母体の栄養と胎児の発育</p> <p>ア 留意して摂取すべき栄養素</p> <p>イ 喫煙・飲酒</p> <p>(3) 褥婦・授乳婦の栄養</p> <p>① 褥婦・授乳婦の栄養と食事</p> <p>ア 産褥期・授乳期のアセスメント</p> <p>イ 授乳婦のための食生活指針</p> <p>② 授乳期の栄養と児の発育</p> <p>ア 母乳栄養と人工栄養</p> <p>イ 授乳期の注意事項</p> <p>(4) 乳幼児の栄養</p> <p>① 乳幼児の栄養と食事</p> <p>② 離乳</p> <p>③ 乳幼児期の病態栄養</p> <p>ア 先天性代謝異常症</p> <p>イ 食物アレルギー</p> <p>(5) 妊産婦の病態栄養</p> <p>① つわりと悪阻</p> <p>② 肥満</p> <p>③ 糖尿病</p> <p>④ 妊娠高血圧症候群</p> <p>⑤ 貧血</p>			
6 7	母子の運動	<p>1 妊婦スポーツ</p> <p>(1) 目的とガイドライン</p> <p>(2) 運動に対する母体および胎児の反応</p> <p>2 妊産婦体操</p> <p>3 リラクゼーション法（自律訓練法）</p> <p>4 産後期の運動</p>	講義	外部講師 ③目加田志帆	
8	試験（1時間）	筆記試験		専任教員 ①岡田多恵子 外部講師☆ 丹羽雅之 ②溝脇菜月 ③目加田志帆	
<p>評価方法</p> <p>筆記試験（外部講師1～2：レポート発表30点、専任教員① 3：10点、外部講師②4～5：30点、外部講師③ 6～7：30点、）</p>					
<p>教科書・参考図書</p> <p>助産学講座3・6・7</p> <p>母子保健マニュアル</p>					
☆担当教員の実務経験		<p>①助産師として医療機関に勤務した経験を生かした授業展開をする。</p> <p>②管理栄養士として勤務している経験を生かした授業展開をする。</p> <p>③助産師として助産院に勤務している経験を生かした授業展開をする。</p>			

授業科目	基礎助産学	担当教員	外部講師☆ 岩砂智丈	単位数	1	時期	4～5月
	妊婦の健康診断に必要な基礎知識			時間数	15		
目的と目標	<p>目的 妊娠および妊娠経過の正常とその逸脱を診断するために必要な基礎的知識を習得する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 妊娠の生理およびそれに伴う母体の変化について理解できる。</li> <li>2 妊娠経過の正否を診断するために必要な異常について理解できる。</li> <li>3 母体・胎児の健康診査に必要な検査について理解できる。</li> </ol>						
回数	学習課題	内 容		方法	担当教員	備考	
1 2 3	妊娠の生理	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 妊娠の概念</li> <li>2 妊娠の成立と維持</li> <li>3 妊娠による母体の変化 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 生殖器の変化</li> <li>(2) 全身の変化 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 内分泌</li> <li>② 呼吸・循環・消化</li> <li>③ 栄養・代謝</li> <li>④ 排泄</li> <li>⑤ 皮膚・粘膜</li> <li>⑥ 神経系（精神・感覚器系）</li> </ol> </li> <li>(3) 母子と免疫 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 免疫学とは</li> <li>② 母体・胎児・新生児の免疫学的特性</li> </ol> </li> <li>4 胎児の成長と発達 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 胎児の発育と評価</li> <li>(2) 臓器の成熟と器官形成</li> </ol> </li> <li>5 胎児付属物の構造と機能 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 胎盤・臍帯・卵膜の構造</li> <li>(2) 胎盤の機能</li> <li>(3) 羊水</li> </ol> </li> </ol> </li></ol>		講義	外部講師 岩砂智丈		
4	妊娠期の診断に必要な検査	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 母体の健康診査 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 尿検査</li> <li>(2) 血液検査</li> </ol> </li> <li>2 胎児の健康診査 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 超音波検査 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 機器の使用法</li> <li>② 妊娠各期の超音波診断</li> <li>③ パルスドプラ・カラードプラ</li> <li>④ 3次元超音波</li> </ol> </li> <li>(2) 分娩監視装置による検査 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 機器の使用法</li> <li>② 陣痛の判読</li> <li>③ 胎児心拍の判読</li> <li>④ 妊娠期の評価（NST・CST）</li> <li>⑤ 分娩期の評価</li> </ol> </li> <li>(3) バイオフィジカルプロファイルスコア</li> <li>(4) 胎児胎盤機能検査</li> <li>(5) 胎児血採取</li> </ol> </li> </ol>		講義	外部講師 岩砂智丈		
5 6	妊娠期の異常	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 妊娠疾患（産科合併症） <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 妊娠悪阻</li> </ol> </li> </ol>		講義	外部講師 岩砂智丈		

7		<ul style="list-style-type: none"> <li>(2) 妊娠高血圧症候群</li> <li>2 妊娠持続期間異常 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 流産・切迫流産</li> <li>(2) 早産・切迫早産</li> <li>(3) 前期破水</li> <li>(4) 頸管無力症</li> <li>(5) 絨毛膜羊膜炎</li> <li>(6) 過期妊娠</li> </ul> </li> <li>3 着床異常 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 異所性妊娠</li> <li>(2) 前置胎盤</li> </ul> </li> <li>4 胎児性異常妊娠 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 子宮内胎児死亡</li> <li>(2) 子宮内発育遅延 (FGR)</li> <li>(3) 血液型不適合妊娠</li> <li>(4) 多胎妊娠</li> </ul> </li> <li>5 胎児付属物性異常妊娠 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 常位胎盤早期剥離</li> <li>(2) 羊水異常</li> <li>(3) 絨毛性疾患</li> </ul> </li> <li>6 ハイリスク妊娠 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 心疾患合併妊娠</li> <li>(2) 呼吸器疾患合併妊娠</li> <li>(3) 腎疾患合併妊娠</li> <li>(4) 甲状腺疾患合併妊娠</li> <li>(5) 糖尿病合併妊娠</li> <li>(6) 子宮奇形・子宮筋腫合併妊娠</li> </ul> </li> <li>7 母子と感染 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 母子感染の機序</li> <li>(2) 母子感染症 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 風疹ウイルス</li> <li>② サイトメガロウイルス</li> <li>③ パルボウイルス</li> <li>④ B型肝炎ウイルス</li> <li>⑤ C型肝炎ウイルス</li> <li>⑥ ヒト免疫不全ウイルス</li> <li>⑦ 成人T細胞白血病</li> <li>⑧ 単純ヘルペスウイルス</li> <li>⑨ 水痘ウイルス</li> <li>⑩ クラミジア</li> <li>⑪ トキソプラズマ</li> <li>⑫ 梅毒トレポネーマ</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>			
8	試験 (1時間)	筆記試験		外部講師 岩砂智丈	

評価方法

筆記試験 100点 (外部講師 1～7 : 100点)

教科書・参考図書

助産学講座 2・6  
助産師基礎教育テキスト 4・7  
最新産科学 (正常編・異常編)  
胎児心拍モニタリング  
病気がみえる⑩ (産科)

☆担当教員  
の実務経験

医師として医療機関に勤務している経験を生かした授業展開をする。

授業科目	基礎助産学	担当教員	外部講師☆ ①島岡竜一 ②岩垣重紀 ③高橋雄一郎 ④松井雅子	単位数	1	時期	4～5月
	産婦の健康診断に必要な基礎知識			時間数	15		
目的と目標	<p>目的 正常な分娩経過とその逸脱を診断するために必要な基礎知識を習得する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 正常分娩の原理とそれに伴う母児の生理的变化について理解できる。</li> <li>2 正常な分娩経過が理解できる。</li> <li>3 分娩経過の正否を診断するために必要な異常について理解できる。</li> <li>4 産科的医療処置について説明できる。</li> </ol>						
回数	学習課題	内 容		方法	担当教員	備考	
1	分娩の生理	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 分娩の定義</li> <li>2 分娩の種類</li> <li>3 分娩の三要素 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 胎児およびその付属物</li> <li>(2) 産道</li> <li>(3) 娩出力</li> </ol> </li> <li>4 正常な分娩経過 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 分娩の前兆</li> <li>(2) 分娩開始</li> <li>(3) 分娩経過</li> </ol> </li> <li>5 分娩の機序 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 陣痛発来の機序とメカニズム</li> <li>(2) 軟産道開大機転</li> <li>(3) 破水</li> <li>(4) 胎児の産道通過機転</li> <li>(5) 胎盤の剥離と娩出</li> <li>(6) 止血の機序</li> </ol> </li> <li>6 分娩が母体に与える影響 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 循環機能</li> <li>(2) 呼吸機能</li> <li>(3) 腎機能</li> <li>(4) 腸管機能</li> </ol> </li> <li>7 分娩が胎児に与える影響 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 胎児心拍の調節機序</li> <li>(2) 応形機能</li> </ol> </li> </ol>		講義	外部講師 ①島岡竜一		
2 3				講義	外部講師 ②岩垣重紀		
4 5 6	分娩期の異常	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 娩出力の異常</li> <li>2 産道の異常</li> <li>3 胎児の異常 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 胎位の異常</li> <li>(2) 回旋・進入の異常</li> <li>(3) 胎児機能不全</li> <li>(4) 多胎</li> <li>(5) 奇形</li> </ol> </li> <li>4 胎児付属物の異常 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 卵膜の異常</li> <li>(2) 臍帯の異常</li> <li>(3) 胎盤の異常</li> </ol> </li> <li>5 胎児に起因する難産 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 巨大児</li> <li>(2) 肩甲難産</li> <li>(3) 奇形児</li> </ol> </li> </ol>		講義	外部講師 ③高橋雄一郎		

		6 CPD 7 遷延分娩 8 軟産道損傷 (1) 膣会陰裂傷 (2) 頸管裂傷 (3) 子宮破裂 9 弛緩出血 10 産科ショック (1) 出血性ショック (2) 羊水塞栓 (3) DIC (4) 敗血症ショック (5) トキシックショック症候群 (6) 子宮内反症 11 子癇発作 12 合併症 (1) 心疾患 (2) 腎疾患 (3) 血液疾患 (4) 糖尿病 (5) 子宮奇形 (6) 感染症 (7) 自己免疫疾患 (8) 妊娠高血圧症候群			
7	産科手術および産科的医療処置	1 産科手術の必要性と意義 2 産科手術の準備 3 分娩誘発・促進法 4 クリストレル胎児圧出法 5 会陰切開術 6 骨盤位娩出術 7 吸引遂娩術 8 鉗子遂娩術 9 腹式帝王切開術 10 産科麻酔 11 胎盤娩出法、用手剥離 12 会陰縫合術	講義	外部講師 ④松井雅子	
8	試験（1時間）	筆記試験		外部講師 ①島岡竜一 ②岩垣重紀 ③高橋雄一郎 ④松井雅子	
評価方法 筆記試験 100点（外部講師① 1：15点、外部講師② 2～3：30点、外部講師③ 4～6：40点、外部講師④ 7：15点、）					
教科書・参考図書 助産学講座7 助産師基礎教育テキスト5・7 最新産科学（正常編・異常編） 胎児心拍モニタリング 病気がみえる⑩（産科）					
☆担当教員の実務経験		①②③④医師として医療機関に勤務している経験を生かした授業展開をする。			

授業科目	基礎助産学		担当教員 外部講師☆ ①市古 哲裕 ②山本 裕	単位数	1	時期	4～5月
	褥婦・新生児の健康診断に必要な基礎知識			時間数	15		
目的と目標	<p>目的 産褥経過および新生児経過の正常とその逸脱を診断するために必要な基礎知識を習得する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 産褥の生理とそれに伴う母体の変化について理解を深めることができる。</li> <li>2 産褥経過の正否を診断するために必要な異常について理解できる。</li> <li>3 新生児の生理と行動の特徴について理解を深めることができる。</li> <li>4 新生児経過の正否を診断するために必要な異常について理解できる。</li> <li>5 新生児の蘇生の方法が理解できる。</li> </ol>						
回数	学習課題	内 容	方法	担当教員	備考		
1	産褥の生理	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 復古の機序と経過 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 性器の復古</li> <li>(2) 全身の復古</li> </ol> </li> <li>2 泌乳の機序と経過 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 乳房の形態の変化</li> <li>(2) 泌乳の機序</li> </ol> </li> </ol>	講義	外部講師 ①市古 哲			
2 3	産褥期の異常	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 性器の異常 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 子宮復古不全</li> <li>(2) 胎盤ポリープ</li> <li>(3) 晩期産褥出血</li> </ol> </li> <li>2 産褥期感染症 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 産褥熱</li> <li>(2) 尿路感染症</li> </ol> </li> <li>3 血栓・塞栓症 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 産褥血栓性静脈炎</li> <li>(2) 深部静脈血栓症・肺塞栓症</li> </ol> </li> <li>4 乳房・乳腺異常 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 乳腺炎</li> </ol> </li> <li>5 乳汁分泌異常 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 乳汁分泌不全</li> <li>(2) 乳汁分泌過多（うつ乳）</li> </ol> </li> <li>6 産褥期精神障害 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) マタニティ・ブルー</li> <li>(2) 産褥精神病</li> </ol> </li> <li>7 産褥後遺症 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 妊娠高血圧症候群後遺症</li> <li>(2) 産褥の心疾患</li> <li>(3) 糖尿病</li> </ol> </li> </ol>	講義	外部講師 ①市古 哲			
4	新生児の適応生理と成長・発達	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 身体的特徴</li> <li>2 生理的特徴 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 呼吸</li> <li>(2) 循環</li> <li>(3) 体温調節</li> <li>(4) 血液</li> <li>(5) 消化・吸収</li> <li>(6) 排泄</li> <li>(7) 代謝・内分泌</li> <li>(8) 神経機能</li> <li>(9) 免疫</li> <li>(10) 栄養</li> </ol> </li> </ol>	講義	外部講師 ②山本 裕			

		3 行動上の特徴 (1) 睡眠 (2) 哺乳 (3) 視力 (4) 聴力 (5) 味覚 (6) 行動評価			
5 6	新生児期の正常経過逸脱状態にある新生児の診断	1 新生児の異常徴候 (1) 呼吸障害 (2) チアノーゼ (3) 嘔吐と腹部膨満 (4) 吐血・下血 (5) 痙攣 (6) 麻痺 (7) 発熱と低体温 (8) 心雑音 (9) なんとなく元気がない	講義	外部講師 ②山本 裕	
7	新生児の主な疾患	1 おもな治療 (1) 呼吸管理 (2) 光線療法 (3) 経管栄養 (4) 輸液管理 2 新生児のおもな疾患の病態・診断・治療 (1) 呼吸障害を引き起こす疾患 (2) 先天性心疾患 (3) 血液疾患 (4) 嘔吐と腹部膨満を引き起こす疾患 (5) 吐血や下血を引き起こす疾患 (6) 内分泌疾患 (7) 痙攣を引き起こす疾患 (8) 新生児眼疾患 (9) 外表奇形 (10) 染色体異常 (11) 感染症		外部講師 ②山本 裕	
8	試験（1時間）	筆記試験		外部講師 ①市古 哲裕 ②山本 裕	
評価方法 筆記試験 100点（外部講師①1～3：50点、外部講師②4～7：50点）					
教科書・参考図書 助産学講座7・8 助産師基礎教育テキスト6 新生児蘇生法テキスト 新生児学入門 最新産科学（正常編・異常編） 病気がみえる⑩（産科）					
☆担当教員の実務経験		①②医師として医療機関に勤務している経験を生かした授業展開をする。			

授業科目	基礎助産学	担当教員	外部講師☆ ①山本 裕 ②今村 淳	単位数	1	時期	5～7月
	乳幼児の健康診断に必要な基礎知識			時間数	15		
目的と目標	<p>目的 健康な乳幼児と、乳幼児期の成長発達に影響を及ぼしやすい低出生体重児・未熟児の基礎知識を習得する。</p> <p>目標 1 低出生体重児、未熟児の特徴と合併症と、成長発達への影響について理解できる。 2 乳幼児の健康状態を診断するための基礎的知識を深めることができる。 3 健康な乳幼児が罹患しやすい疾患と治療について理解を深めることができる。</p>						
回数	学習課題	内 容	方法	担当教員	備考		
1	低出生体重児・早産時の特徴と疾患	1 低出生体重児・早産児の分類 2 低出生体重児・早産児の特徴 3 低出生体重児・早産児のおもな疾患の病態・診断・治療 (1) RDS (2) 無呼吸発作 (3) 未熟児動脈管開存症 (PDA) (4) 未熟児貧血 (5) 低血糖症 (6) 低カルシウム血症 (7) 低体温症 (8) 脳室内出血 (9) 脳室周囲白質軟化症 (10) 未熟児骨減少症 (11) 未熟児網膜症 (12) 早産児に多い小児外科疾患 4 低出生体重児・早産児の予後・経過 5 出生時の蘇生管理	講義	外部講師 ①山本 裕			
2 3	新生児仮死と新生児蘇生法 (NCPR)	1 新生児仮死の病態および評価方法 2 新生児蘇生法の実際	講義 演習	外部講師 ①山本 裕			
4 5	乳幼児の特徴	1 乳幼児の定義 2 身体的特徴 3 生理的特徴 4 精神的特徴 5 食と栄養 6 社会的特徴	講義	外部講師 ②今村 淳			
6 7	乳幼児期に起こりやすい疾患	1 感染症 (1) 麻疹 (2) 突発性発疹 (3) 手足口病 (4) 百日咳 (5) 溶血性連鎖球菌感染症 (6) カンジダ症 2 栄養障害 3 アレルギー疾患	講義	外部講師 ②今村 淳			
8	試験 (1時間)	筆記試験		外部講師 ①山本 裕 ②今村 淳			

<p>評価方法 筆記試験 100 点 (外部講師① 1～3 : 50 点、外部講師② 4～7 : 50 点)</p>	
<p>教科書・参考図書 助産師基礎教育テキスト7 助産学講座8 新生児学入門 新生児蘇生法テキスト 写真で見る乳幼児健診の神経学的チェック法 母子保健マニュアル</p>	
<p>☆担当教員 の実務経験</p>	<p>①②医師として医療機関に勤務している経験を生かした授業展開をする。</p>